

安達太良山の火山活動解説資料（平成30年3月）

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1～図3、図4-①）

若宮及び鉄山に設置している監視カメラによる観測では、噴気は認められませんでした。

13日に陸上自衛隊東北方面隊の協力により実施した上空からの観測では、沼ノ平火口付近の地熱域に特段の変化はなく、噴気は認められませんでした。

・地震や微動の発生状況（図4-②～④）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・地殻変動の状況（図5、図7）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

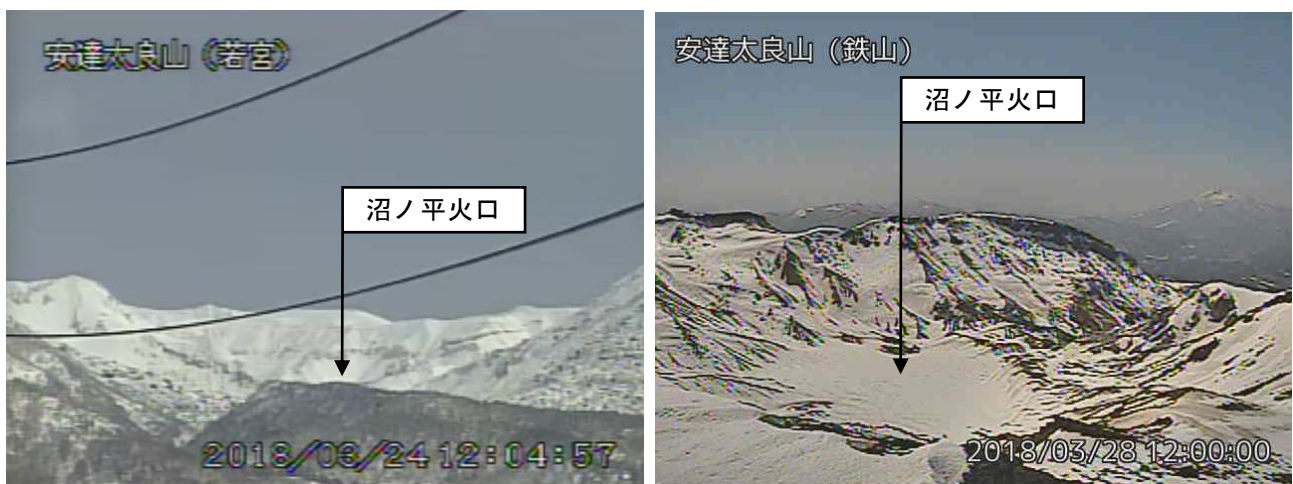


図1 安達太良山 沼ノ平火口周辺の状況

- ・左図：若宮（沼ノ平火口の西北西約8km）に設置している監視カメラの映像（3月24日）です。
- ・右図：鉄山（沼ノ平火口の北東約700m）に設置している監視カメラの映像（3月28日）です。

この火山活動解説資料は、仙台管区気象台のホームページ（<https://www.jma-net.go.jp/sendai/>）や、気象庁ホームページ（https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成30年4月分）は平成30年5月10日に発表する予定です。

この資料は気象庁のほか、国土地理院及び東北大学のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」及び「電子地形図（タイル）」を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。

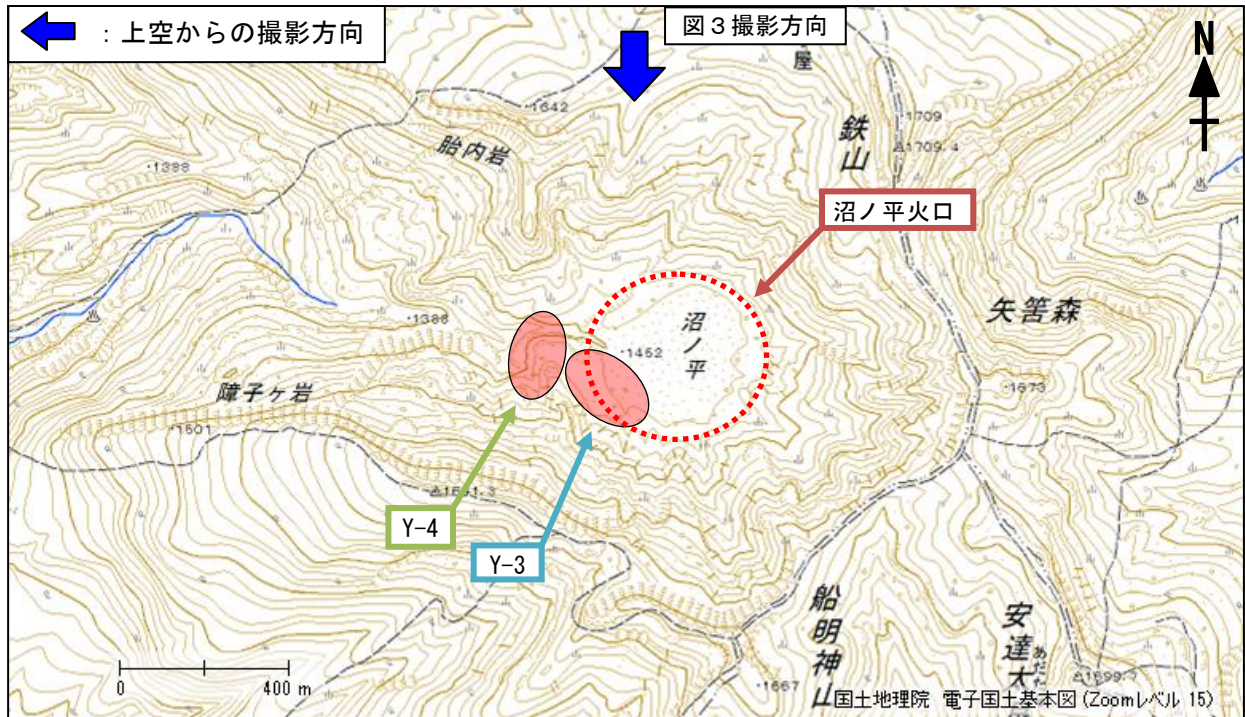


図2 安達太良山 地熱域の分布及び写真と地表面温度分布¹⁾ 撮影位置及び撮影方向

1) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感じて温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

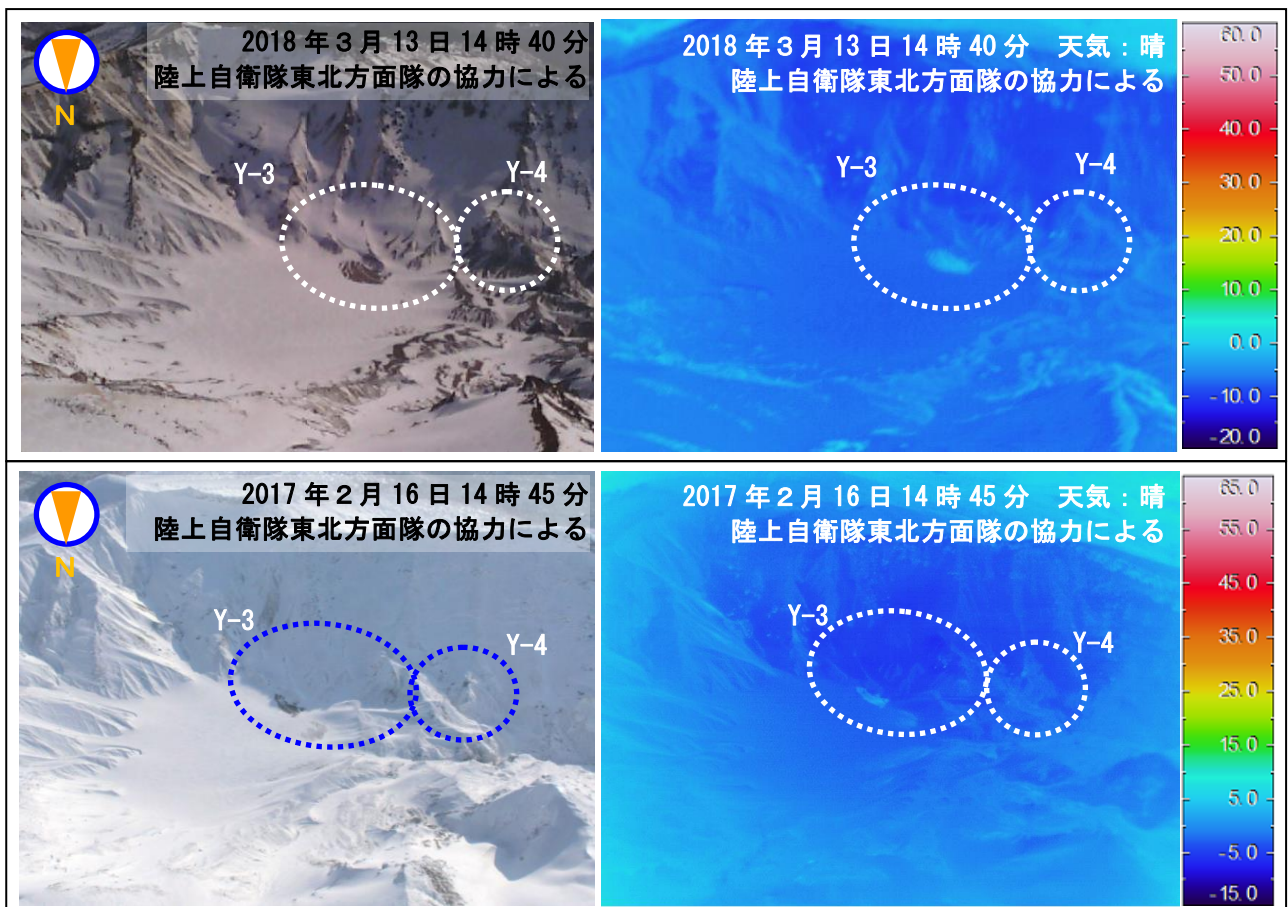


図3 安達太良山 上空から撮影した沼ノ平火口付近(Y-3、4)の状況と地表面温度分布

・地熱域（破線）に特段の変化は認められませんでした。
 ※地熱域以外の温度の高い部分は日射による影響と推定されます。

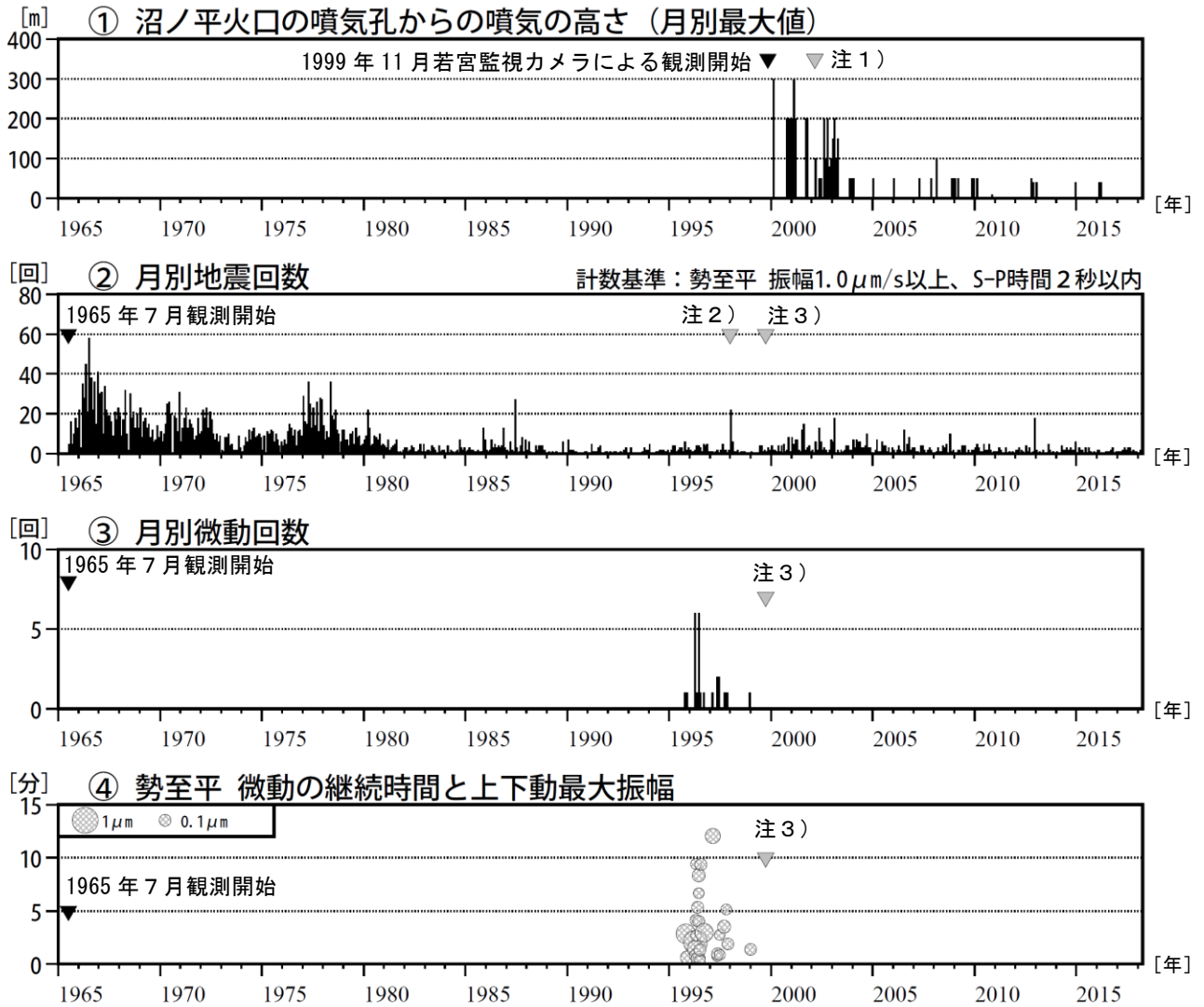


図 4 安達太良山 火山活動経過図（1965 年 7 月～2018 年 3 月）

- ・①注 1) 2002 年 2 月以前は定時（09 時、15 時）及び随時観測による高さ、2002 年 3 月以降は 24 時間観測による高さです。
- ・②注 2) 1998 年より計数基準を S-P 5 秒以内から S-P 2 秒以内に変更しました。
- ・②～④注 3) 1999 年 10 月に基準観測点を塩沢観測点（沼ノ平火口から東北東約 6 km）から新設した勢至平観測点（沼ノ平火口から東北東約 3 km）に変更しました。

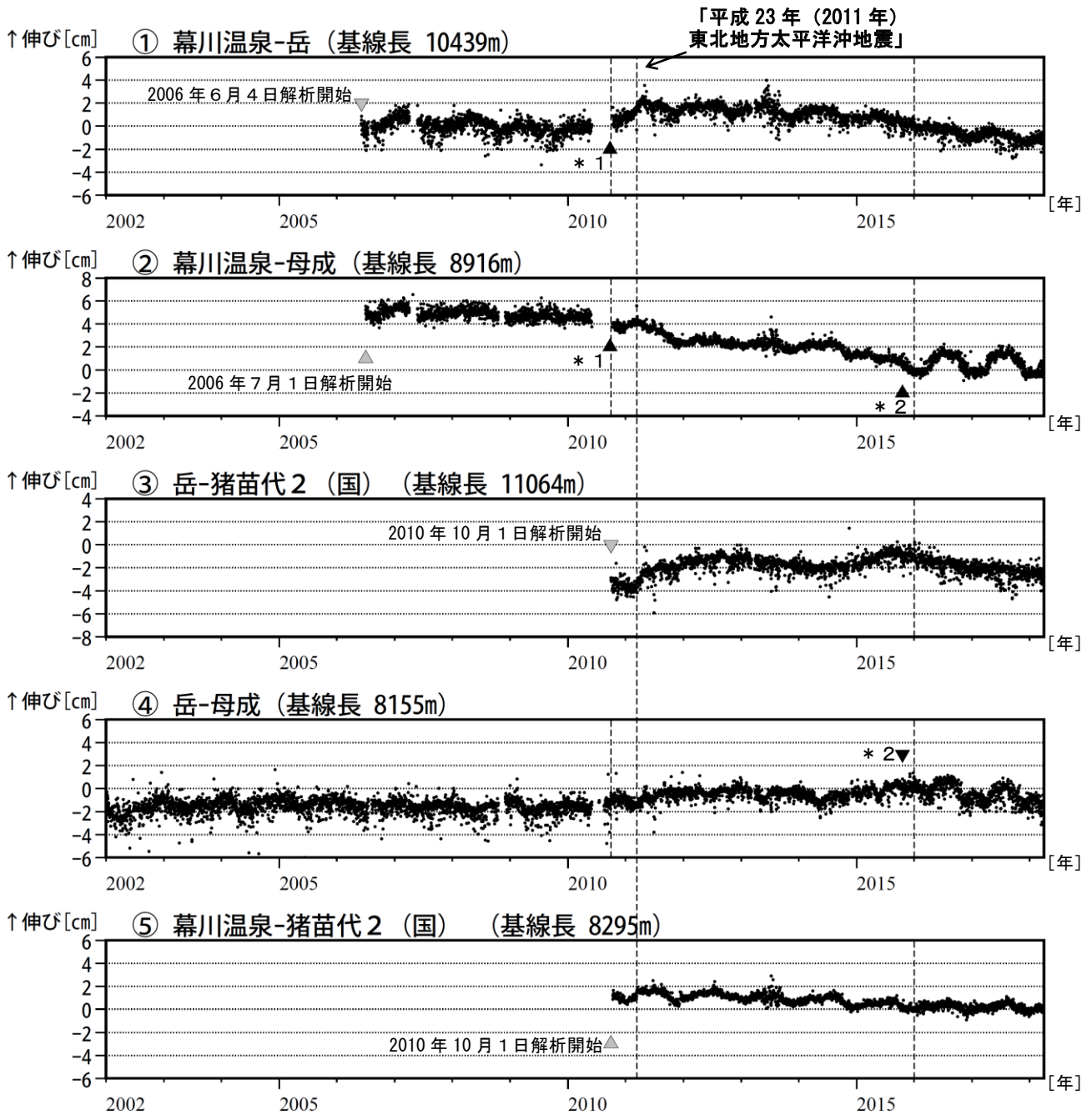


図5 安達太良山 GNSS²⁾ 基線長変化図 (2002年1月～2018年3月)

- ・ 2010年10月及び2016年1月に、解析方法を変更しています。
 - ・ 「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」に伴うステップを補正しています。
 - ・ ①～⑤は図7のGNSS基線①～⑤に対応しています。
 - ・ グラフの空白部分は欠測を表しています。
 - ・ (国)は国土地理院の観測点を示します。
 - * 1 : 幕川温泉観測点の機器更新を行いました。 * 2 : 母成観測点の機器更新及び移設を行いました。
- 2) GNSSとはGlobal Navigation Satellite Systemsの略称で、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示します。

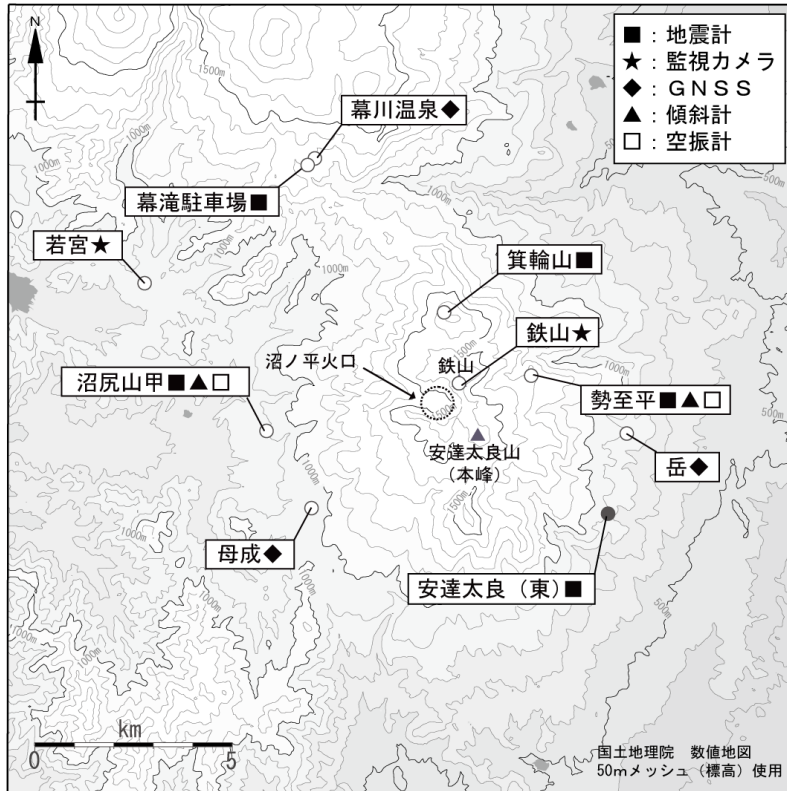


図6 安達太良山 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (東) : 東北大学

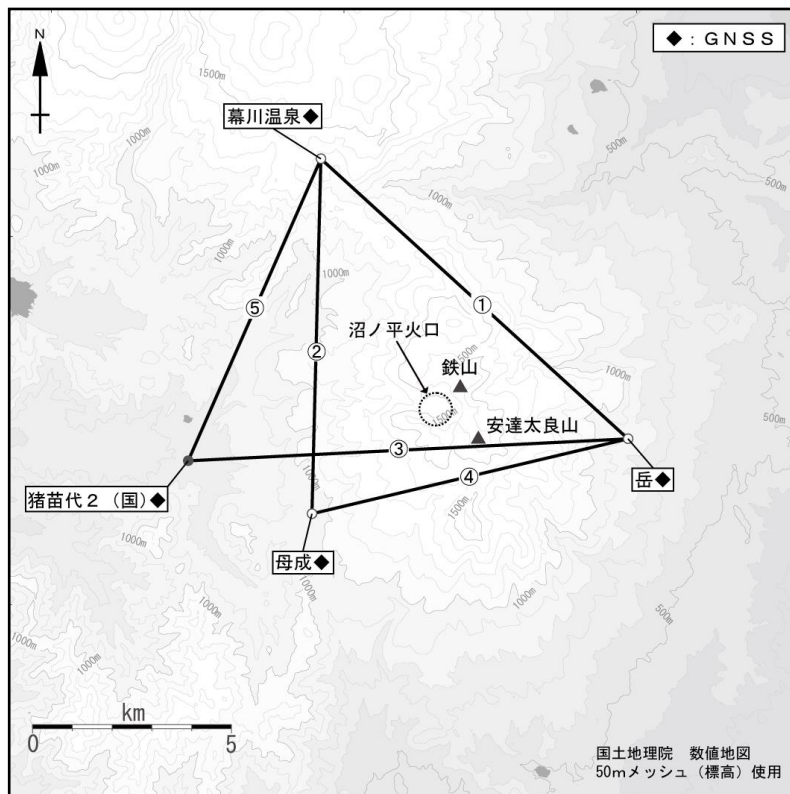


図7 安達太良山 GNSS 観測点配置図

小さな白丸 (○) は気象庁、小さな黒丸 (●) は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。
 (国) : 国土地理院